

令和2年度 第1回 (通算第46回)
山梨県立博物館 運営委員会 次第

令和2年7月31日 (金) 14時~15時30分
博物館 生涯学習室

開 会

1 あいさつ・新任職員紹介

2 議 事

〈 審議 〉

- (1) 令和3年度の展覧会開催計画について 【資料1】
- (2) 令和3年度の研究計画について 【資料2】

〈 報告 〉

- (1) 新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みについて 【資料3】
 - ・企画、シンボル展、およびイベント事業の中止等について
 - ・「かいじあむ+ (プラス)」の開催について
 - ・その他、感染拡大防止に向けた館の取り組みについて
- (2) 開催済み展覧会について 【資料4】
 - ・シンボル展「甲州屋忠右衛門の冒険」(R1. 12. 21~R2. 2. 24)

3 その他

閉 会

企画、シンボル展、およびイベント事業の中止等について

【閉館期間：令和2年2月28日（金曜）～5月21日（木曜）（72日間）】

月	日	山梨県立博物館の対応
2月	21日	<p>○新型コロナウイルス感染拡大防止の対応として、当面の間、以下の講演会・講座・体験イベントなどの中止を告知。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示交流員による常設展スルーガイド（毎週土曜日） ・かいじあむ寺子屋ひろば（毎週日曜日） ・かいじあむ古文書講座「甲州商人に関する古文書を読む」（2月22日） ・シンボル展「甲州屋忠右衛門の冒険」ギャラリートーク（2月24日） ・古文書相談日（3月8日） ・かいじあむ子ども工房「立体浮世絵をつくろう」（3月14日） ・「北斎漫画」展関連講演会「世界を驚かせた北斎と『北斎漫画』」（3月14日） ・「北斎漫画」展ギャラリートーク（3月15日・29日） ・民俗芸能公演「黒平の能三番」（3月22日） ・「北斎漫画」展ギャラリーセッション「今さら聞けない!? 『北斎漫画』のヒミツ」（3月28日） <p>○来館者に対し、以下の項目への協力要請を告知。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内に設置されているアルコール消毒薬を使用すること。 ・咳やくしゃみをする際、ハンカチなどで口や鼻を覆うこと。 ・感染予防のため、スタッフや職員がマスクを着用していることへの了承。
	27日	<p>○常設展等の観覧、資料閲覧等の業務を、2月28日（金曜）から3月20日（金曜・春分の日）まで休止することを告知。</p> <p>○3月14日（土曜）の一般公開を予定していた特別展「北斎漫画—驚異の眼・驚異の筆—」を3月21日以降に延期。</p>
3月	11日	○「おうちで簡単に作ることができる工作」をホームページ上で紹介開始。
	19日	<p>○常設展等の観覧、資料閲覧等の業務休止を当面の間、延長。</p> <p>○特別展「北斎漫画—驚異の眼・驚異の筆—」の一般公開を当面の間、延期。</p> <p>○「おうちで『北斎漫画』」をホームページ上で公開。</p>

4月	2日	○5月末日まで臨時休館することを告知。 ○特別展「北斎漫画―驚異の眼・驚異の筆―」の一般公開中止を告知。
	25日	○「おうちで古文書講座」の資料をホームページ上に掲載開始。
	27日	○県内の事業者向けに、当館が所有する「ヨゲンノトリ」の画像の使用料免除事業を開始。
	30日	○山梨県立博物館とUTYによるオンラインツアー「北斎漫画 驚異の眼・驚異の筆」をホームページ上で公開。
5月	15日	○お庭の見どころガイドの6月からの再開を告知
	16日	○「ヨゲンノトリ」ペーパークラフトのデータをホームページ上に掲載。
	18日	○シンボル展「生誕200年・若尾逸平」の中止を告知。
	22日	○常設展示室の一般公開の再開を告知。以下の感染防止対策を併せて告知。 <ul style="list-style-type: none"> ・発熱、風邪症状、味覚障害など体調に不安のある方や、マスク非着用の方の入館自粛を要請 ・新型コロナウイルス感染症患者の濃厚接触者として現在経過観察中の方の来館自粛を要請 ・5月25日の緊急事態宣言解除の際に特定警戒都道府県であった地域に在住する方の来館自粛を要請 <p>●来館のお客様へ、以下の項目へのご協力要請を告知。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェックシートへの必要事項記入と、館内受付への提出、入館時の検温への協力。 ・館内では、こまめな手洗いや手指消毒の徹底、他のお客様と1m以上の距離確保。 ・壁や展示ケースへの接触自粛。 ・展示室内の混雑を避けるため、入場制限を行う場合があることへの了承。 <p>●館における感染症予防対策への取り組みを告知。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内のソファの一部撤去や、ウォーターサーバー（冷水機）等、一部設備の使用中止。 ・入場制限をかけるなど、状況に応じた館内環境への配慮。 ・鑑賞型展示（接触型展示部分）や体験型展示など展示内容の一部閉鎖。 ・館内各所への、消毒液やハンドソープの設置。スタッフはマスク等を着用して対応。 ○「ヨゲンノトリグッズ収集について」および「ヨゲンノトリの絵募集について」をホームページ上で公開。
	28日	○「山梨県内の博物館・美術館における新型コロナ感染症対策の事例Ver.1」をホームページ上で公開。

6月	1日	○ヨゲンノトリぬり絵を公開。
	10日	○開館15周年記念特別展「特撮のDNA～ゴジラ、富士山にあらわる～」の中止を告知。
	17日	○常設展拡大展示「かいじあむ+（プラス）」の一般公開を開始。
	19日	○「5月25日の緊急事態宣言解除の際に特定警戒都道府県であった地域に在住の方」の入館制限を解除。
	20日	○お庭の見どころガイド10人の定員制限を設けて再開（参加者6名）
7月	16日	○8月・9月の「かいじあむ子ども工房」の人数制限を設け事前予約制での再開を告知
	18日	○お庭の見どころガイド実施（参加者6名）

シンボル展「甲州屋忠右衛門の冒険 ―ミナト・横浜を目指した商人たち―」 終了報告

1 概要

【内 容】

安政6年（1859）6月の横浜開港から160周年を迎えるにあたり、この時代の大きな転換点を期に、いち早く横浜に進出した「甲州商人」の代表的存在である甲州屋（篠原）忠右衛門に注目したシンボル展を実施した。

篠原忠右衛門（1809-1891）は、八代郡東油川村（現在の笛吹市）出身の村役人を務める農民で、甲州屋の出店によって横浜屈指の大商人に成長したが、明治期の蚕種価格の暴落を期に横浜から撤退を余儀なくされた。当館にはこの甲州屋忠右衛門の動向を知ることができる篠原家文書約5,300点を収蔵しており、石井孝氏の諸研究を基礎として、篠原家などの館蔵資料の活用を図ることで、「甲州商人」の活動や激動する幕末・明治の社会のようすを紹介する展示として構成した。また、横浜開港資料館などの所蔵する資料も借用・展示し、甲州と横浜とふたつの地域をめぐる物語を、実証的かつ可視的に紹介するように努めた。

成果としては、良く知られているはずの甲州屋の活動が、地元の内外を問わずあまり知られていないことが浮き彫りとなり、篠原家文書の存在とともに、その価値についての再評価が進んだことが指摘できる。また、その先駆性や行動力といった「甲州商人」だけにとどまらない、本県の県民性の一端を象徴的に紹介することにつながり、郷土の歴史を身近に紹介することができた。その積極的な気風を商人として継承したのが甲州財閥であり、また、係累にも地域の教育界で活躍した矢田一法（忠右衛門の長男正次郎の長男）やその子矢田喜美雄（戦後の南極観測を実現に導く）といった先駆的な存在があったことを明らかにすることができた。50歳にして新たな事業に進出した甲州屋の姿を通じて、現代社会の高齢者にも勇気を与えるような展示のメッセージづくりも考慮した。普及事業については、甲州財閥研究の第一人者である斎藤康彦氏の講演会を開催したほか、笛吹市との連携によって「甲州屋忠右衛門ゆかりの地ツアー」を開催し、多くの人々に展示内容への理解を深める機会を提供した。

【開催要項】

- 開催期間 令和元年12月21日（土）～令和2年2月24日（月・振休）
会期日数66日（開館日数51日）
- 主 催 山梨県立博物館 ○協 力 笛吹市教育委員会
- 観覧料 常設展観覧料 一般520（420）円、大学生220（170）円
※（ ）内は20名以上の団体料金、県内宿泊者割引

【主な展示資料】 展示資料数 62点

- 当館所蔵資料（甲州文庫など）
 - ・神奈川横浜新開港図 歌川貞秀筆（購入資料）
 - ・福地源一郎著『懐往事談』（個人蔵）

- ・甲州屋の印鑑（甲州文庫） ・山梨県産生糸（県繭糸検査所旧蔵資料）
- ・岩代国蚕種（甲州文庫）

○篠原家文書

- ・甲州産物書上帳 ・横浜出店関係書類 ・甲州・横浜間をやりとりした書簡

○借用資料

- ・御貿易場（横浜みなと博物館蔵） ・新版横浜売込寿語録（横浜開港資料館蔵）
- ・横浜貿易商十傑肖像（横浜市中心図書館蔵）

【関連イベント】

○講演会

- ・演題 甲州屋忠右衛門とその系譜
講師 斎藤康彦氏（山梨大学名誉教授）
日時 令和2年2月1日（土） 13時30分から15時まで 会場 生涯学習室
参加者 72名

○県民参画事業（わいわいミュージアム）

- ・演題 忠右衛門ゆかりの地を歩く
講師 つなぐNPO
日時 令和2年1月26日（日） 9時30分から12時30分まで
場所 笛吹市石和町東油川・井戸地区を中心に篠原家、妙油寺、井戸地区富士塚など
参加者 26名

○かいじあむ古文書講座

- ・演題 甲州商人に関する古文書を読む
講師 小畑茂雄（当館学芸員）
日時 令和2年2月22日（土曜）予定
※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

○かいじあむ子ども工房

- ・内容 真綿をつくろう
日時 令和2年2月8日（土） 10時30分から15時まで 参加者 59名

○ギャラリートーク

- ・令和元年12月21日（土）、令和2年1月12日（日）、1月26日（日）、2月11日（火）
15時から1時間程度 ※2月24日（月）も開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

【発行物】 リーフレット A4・4頁（無償配布 4,000部）

2 入場者数

【入館者数】 4,405名（1日平均入館者数：86名）

3 アンケート結果等、総括

- ・回答数 77件。来館者内訳は県外率が45%（市町村記入欄集計では51%）と高く、わざわざ本展を観るために来館したケースが多くみられた。

- ・県内では、甲州屋忠右衛門ゆかりの地元笛吹市が甲府市（22%）について14%。
- ・年齢層は広く分布（10歳代10%、20・30歳代とも7%、40歳代13%、50歳代15%、60歳代13%、70歳代27%、10歳未満・80歳以上とも4%）。
- ・男女比は男性61%、女性39%と男性の比率が大きく上回った。
- ・来館のきっかけは、ホームページ（24%）とポスター・ちらし（23%）がほぼ同数で、ついで新聞と「知人から」が15%で同数となり、地域的な口コミの影響もみえる結果となった。
- ・満足度は「満足81%」と「やや満足18%」を合わせて99%に達し、常設展観覧料で観られる展覧会でありながら、豊富な資料と見やすい大きなグラフィックを採用したことにより、大きな利用者満足度を獲得することができた。
- ・展覧会名称の「冒険」は、時代の大転換期を生き抜く甲州屋忠右衛門の姿を表現したものであり、また彼らが福地源一郎によって「冒険的投機商」と評されたことからとったものでもあるが、「冒険」＝ロールプレイングゲーム的なグラフィックなど親しみやすさを感じてもらえた一方で、実際の展示内容（特に古文書）の難しさを指摘する声もあった。古文書は冒険をめぐる「暗号文」と称して、すべて解説文を用意したものの、解説よりも意味の解釈の充実を求める声もあった。
- ・上記の「暗号文」だけでなく、キャプションにはワンフレーズで資料の内容を理解できるメッセージを入れるなど、難しい古文書（文献史学）の世界を分かりやすく表現できるように努めた。
- ・篠原家文書の多くを占める古文書を活用しつつも、甲州屋の印鑑（担当者を含め甲州文庫に存在することを知らなかった）や蚕種などの非文字資料を積極的に活用し、横浜の地図も借用資料を活用することで、短期間での変貌を比較できるように展示した。
- ・充実した内容を評価する声も多く、図録を求める声もあったが、NPOとの県民参画事業の一環で、つなぐNPOが製作した小冊子（展示のパネルとキャプションのテキストを掲載しただけの簡易な冊子）をミュージアムショップで販売し、好評を得た。
- ・展覧会やイベント参加者を通じて、山梨出身の横浜在住者や、親戚が横浜に居る方など、山梨と横浜のつながりの深さが実証される機会が多くあり、展覧会が地域間交流の歴史をめぐる、「なぜこのようになったか」の今日的な問いに答える、社会性を備えた展覧会となった。
- ・ゆかりの地ツアーなどイベント開催にあたっては、地元の笛吹市教育委員会の協力を仰いだ。特に公共交通の不便な地域だったことから、駐車場の確保や利用調整などについて、特段の配慮を得ることができた。